

一礼、友好深める



記念碑に向かって一礼する岡谷、塩尻両市の参列者

「日本一短い」塩嶺御野立記念祭

参列者が一礼するだけの「日本一短い祭り」として知られる塩嶺御野立記念祭が24日、岡谷、塩尻の両市境にある塩嶺御野立公園で行われた。両市の行政、経済、観光の関係者ら約150人が参列。明治天皇の訪問を記念して建立された石碑の前で頭を下げ、両市の友好の深まりと発展を願った。

明治天皇が1880（明治13）年に塩尻峠を訪れたことを記念した祭り。平野村と長地村（現岡谷市）、塩尻村と筑摩地村（現塩尻市）の有志によって1915年に記念碑が

市の友好を表す祭りが始まり、春は岡谷市、秋は塩尻市の主催で続けている。昭和1947（昭和22年）には昭和天皇も同地を訪れている。

参列者は午前10時ちょうど、「一同、礼」の掛け声に合わせて20秒間頭を下げた。岡谷市の早出一真市長は「素晴らしい天気で、さすがしい気持ちで両市の絆が深まることを祈った」、塩尻市の百瀬敬市長は「半期に一度気持ちリセットする大事なお祭り。歴史ある祭りを未来につないでいくことがわれわれの仕事」と話していた。